

3 活動内容(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全

(1) 活動の過程

	学級や学校の生活づくり	日常の生活や学習への適応及び健康安全
事前の活動	<p>課題の発見 教師の適切な指導の下に、児童が次の活動を行う。</p> <p>↓</p> <p>共同の問題(活動)の設定 ①よりよい学級や学校の生活づくりにかかわる諸問題を見付け、提案をする。</p> <p>↓</p> <p>課題の決定</p> <p>↓</p> <p>計画の作成 ②協力して達成したり、解決したりする共同の問題活動を決めて、</p> <p>↓</p> <p>問題の意識化 問題意識を共有化する。</p> <p>③目標を達成したり、問題を解決したりするために、全員で話し合ふべき「課題」を決める。</p> <p>④話し合いの順番など、話し合い活動(学級会)の活動計画を作成する(教師は指導計画)。</p> <p>⑤話し合うことについて考えたり、情報を収集したりして、自分の考えをまとめるなど問題意識をもつ。</p>	<p>課題の確認 教師が意図的、計画的な指導構想の下に次のようなことを行う。</p> <p>↓</p> <p>共通の問題(活動)の設定 ①年間指導計画において取り上げる題材についての学級の児童の問題の状況などを確認する。</p> <p>↓</p> <p>題材の決定</p> <p>↓</p> <p>計画の作成 ②個々の児童が共通に解決すべき問題として授業で取り上げる内容を決めて、児童に伝え、問題意識を共有化させる。</p> <p>↓</p> <p>問題の意識化</p> <p>③個々の児童が共通に解決すべき問題として「題材(名)」を決める。</p> <p>④導入、展開、終末の指導計画を作成し事前調査をしたり、資料を作成したりする(発達段階に即して児童の自主的な活動を取り入れるようにする。)</p> <p>⑤授業において取り上げる問題について自分の状況について考えたり、学級の現状を調べたりして問題意識をもつ。</p>
本時の活動	<p>話し合い活動</p> <p>○ 集団討議による集団目標の集団決定</p> <p>○ 協力してよりよい学級や学校の生活をつくるために集団として実践するための目標や方法、内容などを決める。(提案理由の理解→意見の交換→多様な意見を生かしたよりよい集団決定をする。)</p>	<p>話し合い活動</p> <p>○ 集団思考を生かした個人目標の自己決定</p> <p>○ 自分の問題の状況を理解し、個人として解決するための目標や方法、内容などを決める。(問題の状況や原因の把握→解決や対処の仕方などについてともに考える→自分としての解決方法などを自己決定する。)</p>
事後の活動	<p>○ 手段決定したことを基に、役割を分担し、全員で協力して、目標の実現を目指す。</p> <p>○ 活動の成果について振り返り、評価をする。</p>	<p>○ 自己決定したことを基に、個人として努力し、目標の実現を目指す。</p> <p>○ 努力の成果について振り返り、評価をする。</p>

活動内容(2)で扱う内容は、

- ・児童に共通した問題であるが、共同の問題というよりも個々に応じて実践されることが多い問題
- ・教師の意図的、計画的な指導により解決されるものを多く含む問題

が多いんだよ。



(2) 指導のポイント

①活動内容を「題材」として取り扱う。

- ・学級の全員に共通な問題であり，主に児童個々において実践される問題ととらえる。
- ・子どもの力だけで解決するには無理があり，教師の意図的計画的な指導を要する。

②教師が中心となり指導する。

- ・教師自身の一方的な押しつけになりすぎないように，児童一人一人がその子なりの実践課題がもてるような指導を心がける。
- ・子どもたち一人一人が，自己決定し，「よしやろう」と思える活動過程を考える。

③担任以外の協力を得る

- ・内容によって養護教諭，栄養教諭や学校栄養職員，図書館司書などの教師の協力を得ながら指導することも大切である。

④家庭と共に指導する

- ・学級通信や学年だよりなどを通して活動の様子を家庭に知らせ協力を得る。



活動内容(2)の内容は，すべての教育活動で進められる生徒指導と深いかわりがあるね。教師と子どもとの信頼関係を深め，子どもたち相互の人間関係を育てていこう。

そのためには，朝の会や帰りの会などの短い時間を利用して指導することも考えてほしいですね。また，家庭教育との連携を密にとり，日ごろの指導の徹底を図ることで学級活動の時間に取り上げる内容が精選されるよ。

大切なことは，「自己決定をさせるための話し合いをする」とことと「アからキの内容を1年間で必ず1時間以上は実施する」ということなのね。





活動内容(2)を進めていく上での留意点

活動内容(2)は、児童一人一人が、自分の問題の状況を理解し、個人として解決するための目標や方法、内容などを決める活動である。授業の終末では、自分の問題に対して、具体的な行動目標を自己決定して、実践化につながるような活動を計画する必要がある。学んだことの感想で終わるような展開にならないように留意する。



ア～キの内容を必ず1単位時間の授業で各1時間は取り上げるとともに、朝や帰りの会、給食や清掃の時間などあらゆる教育活動の場を有効に活用して、指導の重点化や焦点化を図る必要がある。

ひとつの内容(例えば、キ「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」)を5時間も取り上げてしまうことがないようにする。

(3) 内容と題材例

活動内容	題材例	
(ア) 希望や目標をもって生きる態度の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・〇年生になって ・めあてを作ろう ・自分のくらしを見つめよう ・聞いてよ私のこと ・〇学期を振り返って 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに挑戦しよう ・学習のしかたを工夫しよう ・私の夢 ・休みの日のすごし方 ・もうすぐ〇年生
(イ) 基本的な生活習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓の工夫をしよう ・気持ちのよいあいさつをしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉づかいについて考えよう ・ものを大切にしよう ・決まりを守ろう
(ウ) 望ましい人間関係の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで話そう ・ひとりひとりのいいところ ・うれしかったことを話そう 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんななかよし ・支え合うって ・こんな時友だちがいてくれたらな
(エ) 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・きれいな教室にしよう ・おそうじ名人大作戦 ・当番活動について考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなではたらくと ・やってみようボランティア活動
(オ) 学校図書館の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館のきまりと使い方 ・本の紹介をしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書記録カードを作ろう ・読書の思い出
(カ) 心身ともに健康で安全な生活態度の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりの安全 ・安全な登下校 ・安全な自転車の乗り方 	<ul style="list-style-type: none"> ・かぜの予防 ・たばこの害を考えよう ・男女のちがいと協力

	<ul style="list-style-type: none"> ・災害にそなえよう ・虫歯の予防 	<ul style="list-style-type: none"> ・明るい気持ちで生活しよう
(キ) 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい給食 ・給食準備の工夫 ・配膳の仕方について 	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつについて ・健康と食事 ・感謝して食べよう
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の道徳性の指導 ・国民の祝日の事前指導 ・長期休業日の事前・事後指導 ・環境美化に関する指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の事前・事後指導 ・貯蓄や消費に関する指導 ・情報モラルに関する指導

(4) 展開例

① 展開例 1

題材 「学級目標と自分のめあてを決めよう」

- ねらい
- ・保護者・担任・児童一人一人の願いを生かしながら学級目標を決める。
 - ・学級目標に基づいて決まった一人一人のめあての実現に向かって努力しようとする態度を養う。

展 開

	学習活動	指導上の留意点
導 入	1 本時の学習のねらいを確かめる。	・一人一人が意欲的に活動できるように励ます。
展 開	2 どんな学級にしたいのかそれぞれの考えを聞く。	・保護者から得たアンケート結果を提示する。 ・わからない言葉があったら質問するなどして言葉をはっきりさせる。
	3 キーワードになる言葉を話し合い学級目標を決定する。	・教師も積極的に考えを話す。
	4 できた学級目標について感想を話し合う。	・学級目標が全員のものであること、一人一人の実践が大切なことを理解させる。
	5 個人のめあてを決める。	・具体的な実践課題になるようにする。
終 末	6 保護者の願いを聞く。	・保護者からの取材テープを聴かせ、親の期待や支えがあることを理解させる。

② 展開例 2

題材 「好き嫌いせず」(食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成)

- ねらい
- 給食をはじめとする自分の食生活を見つめ、栄養のバランスを考えた食事のとり方を知るとともに、積極的に食生活を改善していく意欲を高めることができる。

展 開

	学習活動	指導上の留意点
事 前	○好きな給食や苦手な給食のメニューをアンケートや聞き取りなどにより調べ、児童の食生活の問題を把握する。	○聞き取りから、学級の児童の全体的な傾向をまとめる。 ○学校栄養職員の協力のもと、給食の残滓量や特にどんなメニューの時に残すことが多いのか具

		体的に調べておく。 ○給食振り返りカードに記録をさせておく。
本時	○残滓量とメニューの関係を表した図表をもとに学級の問題点を見つけ話し合う。 ○給食振り返りカードをもとに、自分の問題点を調べる。 ○給食を残すとどのような問題が生まれるか話し合う。 ○これから自分がどのようなめあてをもって実践していくか具体的なことを考える。	○学校栄養職員と協力して、給食のメニューの栄養素について知らせ、バランスよく食事をしていくことの重要性に気付かせる。 ○個々の目標が具体的なものになるように助言する。 ○望ましい食習慣が身につくような意欲づけを図る。
事後	○給食振り返りカードに記しためあてが守れているか継続して記録する。 ○記録したことを帰りの会等を使って発表しあう。 ○一定期間調査した結果を個々にまとめ振り返りをするとともに、過程での実践についても話し合う。	○継続して記録ができていないか確認するとともに、食に関する生活の様子が変わってきた児童については、認め励ますようにする。 ○家庭に対しても学級通信や日記の連絡欄等を活用して積極的な協力の呼びかけを行う。

指導案の形式例

(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全

第○学年○組 学級活動指導案
○月○日 (○) 第○校時
指導者 ○○ ○○ 印

1 題材 「○○○○」
2 児童の実態と題材設定の理由
児童が自己の問題としてとらえ、目標や方法を設定できるよう、学級生活における児童の実態から、取り上げる題材の必要性についてふれ、教師のもつ題材観、指導観についてまとめる。
3 指導のねらい
4 評価規準
5 事前指導
題材にかかわる児童の実態を把握し、課題を明確にするための諸調査等の指導の経過をまとめる。
6 本時のねらい
自他との関わりの中で、個人としての在り方を自己決定できるようにするための指導のねらいを記述する。

7 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	教材・資料
導入	1 問題の把握 (意識化) (共通化)	○自分の問題としてだけでなく、学級全員の共通な問題として気付くようにし、問題解決意欲を高める。	各種のグラフや表 記録文や作文など
展開	2 問題に対する原因の究明 (原因追及) 3 解決方法の工夫 (解決策)	○集団思考から自他との関わりの中で客観的に問題の原因をさぐり、追求できるようにする。 ○集団思考を通して自分自身としての具体的な解決方法をつかむことができるようにする。	事例 作文 録音 父母の声 ロールプレイング 地域の人や他の教師の談話など
終末	4 実践目標の自己決定 (個別化) 5 実践への意欲化 (実践化)	○共通のめあてを押さえつつ、自分なりに実践可能な計画を自己決定できるようにする。 ○一人一人が強い決意で実践意欲がもてるようにする。	作文 実践カード

8 事後指導
・自己決定したことを基に、個人として努力し、目標実現を目指すような手だてを記入する。
・努力の成果について振り返り、評価する。



【 学級活動 Q & A 】

————— (1)学級や学校の生活づくり —————

Q 学級会をスムーズにスタートさせるためには、どのような指導をすればいいのでしょうか。

A 学年当初から話合いの基本(議題収集・議題の決定の方法, 計画委員会の話合いの柱立て, 司会グループの話合いの進め方, 発言の仕方等)を教え, 話合いのルールを子どもたちが理解することが大切です。話合いの基本に沿って話合い活動を経験していく中で, 子どもたちは話合いの方法を学んでいきます。焦らずにじっくりと取り組み, 経験を積むことが大切です。教師はできるだけ子どもたちに任せ, 見守るという待ちの姿勢でのぞむことも必要です。

Q 議題があまり提案されません。どうすればいいのでしょうか。

A 初めに, 多くの議題例を提示し, それをもとに議題を考えるようにしましょう。グループ等の少人数で考えてみるのもいいでしょう。また, 日記や生活の中でのつぶやきを, 議題として提案するようにうながす方法も考えられます。今, どのような議題が提案されているかを知らせる掲示の工夫をしたり, 計画委員会から呼びかけを行ったりするのもいいでしょう。

Q 話合いがうまく進みません。どうすればいいのでしょうか。

A ・話合いの方向がそれた場合

司会グループだけでなく, 全体的に助言を与え, 話合いの仕方について指導しましょう。経験を積み重ねれば, 司会グループへの助言だけでいいでしょう。

・意見が分かれて話合いが進まない場合

友だちの意見をよく聞き, 互いの意見を認め合いながら, 譲歩してよりよい案を作り上げていく姿勢を大切にしましょう。教師は, 折り合いをつけたことを賞賛し, 次の話合し合いの充実につながるように指導しましょう。

Q 話合いで, 活発な発言をうながすために, どのような指導をすればいいのでしょうか?

A 学級会の時間だけ, 活発に発言し合うことは難しいと考えられます。普段の学習活動や学級活動において, 意見の出し方を知り, 自分の考えを発言できるようにしておくことが大切です。また, 学級会で自分の意見を出したり, 友だちの考えを聞いたりする話合い活動の充

実は、他の学習活動の質的な向上にもつながり、言語活動の充実が図られます。学級会で活発に話し合うために、発言の仕方カードを持ったり、学級会ノートに綴じたりして参考にするのもよいでしょう。教師は安心して発言できる雰囲気づくりを心がけ、常に話し合いを大切に、励ます姿勢をもちましょう。

Q 学級会での助言は、どのようなことに気をつけなければならないのでしょうか。

A ・話し合い中での助言

話し合い中は、できるだけ教師の助言は控え、子どもたちに任せましょう。しかし、話し合いが行き詰まったり、人権・健康・安全にかかわる配慮のいる発言があったりしたときは、適切な助言を行いましょ。う。

・話し合い後の助言

話し合い後の「先生のはなし」では、司会グループの労をねぎらうとともに、進んで話し合いに参加できたことを賞賛しましょう。回を重ねるごとに、提案理由に沿った意見や友だちの思いを大切にしたい意見を賞賛するとよいでしょう。また、前回の話し合いよりよくなった点を認めたり、次の活動への意欲を高めたりする助言を心がけましょ。う。

Q 1クラスに5人しか子どもがいません。どのように話し合いをすすめればいいのでしょうか。

A 児童数の減少で、極小規模の人数の学級がこれから増えてくることが予想され、話し合い活動をすすめていく上で非常に大きな問題になってくると考えられます。しかし、「人数が少ないから学級会はできない」と考えるのではなく、「今の学級でどのようにしたら学級会ができるか」「話し合い活動をどのように確保していくか」といったことを考えることがやはり重要です。(国語科や算数科の授業でも話し合いをさせていくことは当然必要だととらえることと共通する部分もあります。)

人数が5人ということであれば、①計画委員(司会グループ)の負担を軽くする手立てや②教師の役割を工夫する手立て、③話し合い活動を活性化させるための手立てなどを考えていきましょう。①であれば、事前の話し合いの準備を5人全員で進め、当日の話し合いは司会と黒板記録の2人で話し合いを進め、ノートの記録は後で当番が行ったりデジタルカメラで記録したりする、②であれば、黒板記録を教師が行いノート記録を児童が受け持つ、場合によっては教師もフロアのメンバーとして参加する、③であれば、司会グループもルールを決めて発言に参加する、定期的に他の学年と合同の学級会を実施することなどが考えられます。

大切なことは、教師の強い意志と柔軟なセンスで「話し合いを続けていく」ことだと考えます。ヒントになる実践として、美波町立木岐小学校の取組(H 21 ~ 22・国立教育政策研究所、教育課程研究センター研究指定校事業)がありますので参考にしてください。

Q 話し合った内容を実践する場所や時間について、どのような配慮が必要でしょうか。

A 教師が最初に「児童に任せることができない条件」を指導しておくことが大切です。子どもたちで解決できる問題か、そうでないかをはっきりさせておき、子どもたちが解決できる問題を話し合うようにしましょう。実践の場所や時間については、教師が他の教育活動を配慮しながら決めておき、学級会の際に子どもたちに「決まっていること」として知らせましょう。

Q 司会グループは輪番制でないといけないのでしょうか。

A 司会グループは原則、輪番制とし、いろいろな役割が経験できるようにしましょう。いろいろの役割を経験することが、互いの立場を理解し合い、次からの話合いの充実につながったり、自他のよさの新たな気付きとなったりするでしょう。また、学級の一員としての自覚を深めたり、リーダーとしての意欲や自信につながる一つの経験となったりするでしょう。特定の子どもに偏ることのないように配慮しましょう。

Q 計画委員会では、どのようなことを話し合えばいいのでしょうか。

A 計画委員会は司会グループと教師で行います。学年当初に週の活動計画を作り、その週日程に従って、活動していきましょう。まず、議題を集め、選定し、子どもたちとともに決定します。その後、柱を検討し、柱を決定します。柱が決まったら、学級会の手順や話合いで気をつけることなどを話し合います。それぞれの役割についても、同様に話し合います。必要に応じてアンケートをとることもあるでしょう。教師は、意欲と自信をもって話合いにのぞめるよう、助言を行きましょう。

Q 学級活動コーナーはどのようにすればいいのでしょうか。

A 教室に学級活動コーナーを作りましょう。学級活動コーナーには、今までの学級会の記録(議題の歴史・話し合って決まった内容)や次回の学級会のお知らせ、議題提案カードの提示場所を設けましょう。また、子どもたちが自由に書いたり貼ったりできる係活動コーナーも作るとういでしょう。



【議題提案カードと次の学級会のお知らせ】

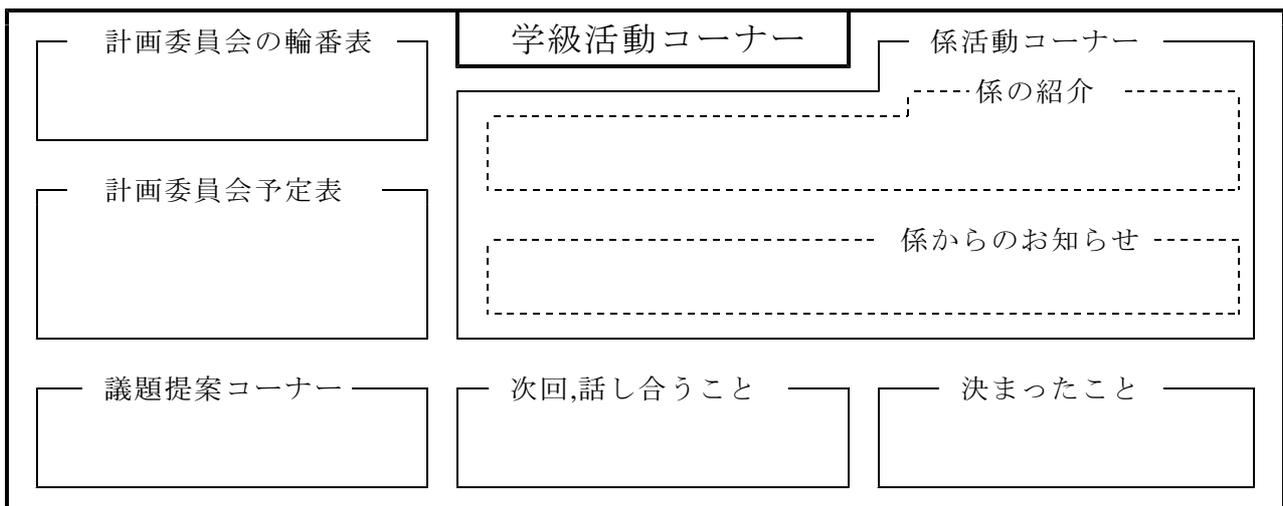


【学級会コーナー】



【係のお知らせコーナー】

〈学級活動コーナーの例〉



いつでも自由に活動できるように、コーナーの前に学級活動の道具(マジック・鉛筆・消しゴム・はさみ・のり・画鋸・各種用紙・議題提案用紙・セロテープ等)を置いて、子どもたちが自由に使えるようにしておこう。



作業スペース(児童用机 1~2 個)もあるといいね。

集会のアイデアや工作ブック, ゲーム集などの本もそろえておくといいわ。

Q 朝の会・帰りの会を充実させるために、どのような工夫があるのでしょうか。

A 朝の会が「健康観察と連絡事項の伝達の間」、帰りの会が「一日の反省と明日の持ち物や宿題など連絡の間」だけにならないように、学級生活を向上発展させる場として活用していきましょう。子どもたちが、「今日一日がんばろう」「明日もがんばろう」と思える朝夕の会になるよう工夫しましょう。朝夕の会の内容をより充実させるためには、

- ・学級活動の事前・事後の指導や、1時間かけて話し合うほどでない問題や急ぐ問題等について話し合う。
- ・学級活動で決めたことが実践できたかどうかを個人で確かめたり、みんなで話し合ったりする。
- ・話し合いが学級生活の向上に役立っていることを子どもたちが認め、教師がそれを励ますことのできる日常の生活指導の場とする。

などに配慮することも必要でしょう。朝夕の会を子どもたちの活動の場と考えて内容を工夫し、実態に合わせて子どもたちと相談して決めていきましょう。曜日によってプログラムを決めるのもいいでしょう。

朝の会の内容(例)

- | | | |
|-----------------------------|-------------|-----------------------|
| ・朝の歌 | ・健康観察 | ・個人やグループの今日一日のがんばるめあて |
| ・係からのお知らせ | ・学習に関係したクイズ | ・一分間スピーチ |
| ・学級会で話し合うほどでない問題や急ぐ問題の話し合い等 | | ・先生からのお知らせ |

帰りの会の内容(例)

- | | |
|--|------------|
| ・今日、みんなでがんばったことや問題になったこと | |
| ・係や当番からの連絡やお願い(議題へとつなげることもできる) | |
| ・学級活動で話し合っ、うまく実践されていることなどの発表(学級の連帯感や活動への意欲、活動の自信へとつなげるようにする) | ・宿題や持ち物の確認 |
| ・計画委員会からの「議題のお知らせ」「提案理由」の発表 | ・先生のお話 |

————— (2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全 —————

Q (2)の内容を指導するとき、どのようなことに配慮すればいいのでしょうか。

A 年間計画に沿って指導を進めていきますが、子どもたちの実態に応じて指導内容の重点化を図るなど、弾力的な指導を行っていきましょう。学級会などと異なり教師が中心となって指導を行います。集団思考を生かして個人目標の自己決定につなげていくために、できるだけ子どもたちの自主的な話し合い活動を取り入れましょう。自己決定したことを基に、個人として努力し、目標の実現が目指せるように指導していくことが大切です。

Q 学級活動の授業時数は、どのように配当すればいいのでしょうか。

A 学級会や係，集団活動などを扱う「(1) 学級や学校の生活づくり」の授業時数を十分配当できるよう配慮しましょう。「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」については，各内容について，毎学年必ず取り扱うようにしましょう。1 単位時間の授業として取り扱わない内容については，朝夕の会などの短い時間を利用して指導しましょう。

〈 配當時数一覧の例 〉

学 年		1	2	3	4	5	6
(1) 学級や学校の生活づくり		1 7	2 0	2 2	2 3	2 5	2 6
日 常 の 生 活 や 及 び 学 習 健 康 の 安 全	ア希望や目標をもって生きる態度の形成	3	3	2	2	2	2
	イ基本的な生活習慣の形成	4	3	2	2	1	1
	ウ望ましい人間関係の形成	3	3	3	2	2	1
	エ清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解	2	1	1	1	1	1
	オ学校図書館の利用	1	1	1	1	1	1
	カ心身ともに健康で安全な生活態度の形成	2	2	2	2	1	1
	キ食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成	1	1	1	1	1	1
	その他の内容	1	1	1	1	1	1
小 計		1 7	1 5	1 3	1 2	1 0	9
合 計		3 4	3 5	3 5	3 5	3 5	3 5

Q 特別活動を充実させるために、どのような言語活動の工夫をすればいいのでしょうか。

A 特別活動における話し合い活動，なかでも学級活動の話し合い活動では，国語科を中心として各教科等の指導で身に付けた言葉を的確に理解したり表現したりする能力，互いの立場や考えを尊重し伝え合う能力，要約して記録する能力などを実践的に活用したり，さらにこのような能力を向上させたりする場であり，言語活動を充実する観点からも重要な活動ととらえることができます。大切なことは，「児童に『意見を意見としてアウトプットしたりインプットしたりする』ことを意識化させ，実践させていくこと」や「『意見の出し合い』ではなく『話し合い』をさせることを教師が心がけること」です。

また，学校行事をはじめとする様々な体験活動においても，体験活動を通して気付いたことなどを振り返り，まとめたり，発表し合ったりする活動が展開されることが求められています。体験活動の前後に文字言語や音声言語で感じたことや気付いたことをしっかりと発表

したり記録したりしていく時間を確保することや、全体の振り返りを様々な場で発信していく活動をしていくことが重要です。これらのことを負担ととらえず活動の一環として楽しみながら進めていきたいものです。

Q 学級活動の評価を、どのような方法で行えばいいのでしょうか。

- A 特別活動の評価では、児童一人一人のありのままの活動状況や変容の様子を、計画的、継続的に把握していく方法を活用することが重要です。そのためには、補助簿や評価カード、児童の記録ノートなどを準備すること(物的条件整備)と、複数の教師による評価の方法を整えること(人的条件整備)により、できるだけ評価に客観性をもたせるような工夫をする必要があります。また、児童のわずかな意欲の変化や活動状況の変化も見逃すことがないように見取り、直ちに指導に生かすことができるような観察力と指導力を高めることも大切です。それらの点を踏まえた上で、次のような方法を積極的に取り入れて、指導に生かしましょう。

ア 観察法

観察法は、児童のありのままの実態を把握しようとするもので、特別活動の評価方法の基本となるものです。しかし、観察者の主観による評価方法であるため、特定の児童だけが評価の対象者になったり、指導者のいないところでしっかりと活動している児童に対する評価ができなかったりすることも十分考えられます。さらに、特別活動がめざす児童の行動や考え方、判断力などの変容は、長いスパンで観察を継続しなければ評価しにくい面もあります。

このような問題点を解決するために、逸話記録法や評価尺度法及びチェックリスト法などを併せて用いるとともに、複数の評価の資料により判断するなどして、できるだけ観察法による評価に客観性をもたせるように工夫することが大切です。

○ 逸話記録法

児童の生活や活動の中から逸話を観察し、記録したものを評価に生かす方法です。

実際には、教室の座席表を改良して、逸話を記録する欄を設け、観察したことをメモ書きしておき、ある程度期間が経過した時点で、記録簿に整理して記載する方法が考えられます。また、並行して、意図的に特定の児童(数名)に絞り、順番に観察、記録していくことも、集団の成員の活動状況をもれなく観察できる有効な手立てと思われます。無理をしない程度に、毎日こまめに記録していく習慣を身に付けることにより、多くの評価資料を集めることができます。

○ 評価尺度法

あらかじめ設けた一定の基準によって評定の段階尺度を構成しておき、この段階に照らして、行動に特定の特徴が認められる程度を評価して記録する方法です。この場合、評価する対象や内容によっては、観察しながら評定尺度に記録していくよりも、まず、観察記録をとり、次に資料として改めて評定尺度にのせる手続きを踏むことにより、評価に客観性をもたせることができると思われます。話合いの活動における発言内容や状況などの評価に適しています。

○ チェックリストによる方法

観察しようとするポイントをあらかじめ表にしておき、該当する事項をチェックし、活動状況を分析する方法です。この方法は、能率よく記録でき、整理しやすいという特色がありますが、機械的になってしまうことや観察者がチェックに終始してしまう問題点もあるので、逸話記録法と併用することが望ましいと思われます。

イ 質問紙法

質問紙を渡して、その回答を求める方法です。一般的には、認知や意識、意見や感情などについて把握するのに適しています。

記入形式としては、(ア)「自由記述形式」、(イ)「諾否を求める形式」、(ウ)「回答を選択肢として示し、チェックさせる形式」、(エ)「順序づけをさせる形式」、(オ)「評定を求める形式」などが考えられます。(ア)は「感想や意見」、(ウ)や(オ)は「関心・意欲・態度」や「思考・判断」の調査に適しています。質問紙作成の際には、把握したい内容を定め、「望ましい集団活動の一般的条件」を考慮した上で、内容や程度、組合せを工夫しましょう。

ウ 面接法

面接者が個人や集団を対象として、直接顔を合わせて面談し、質問についての回答などから必要な情報を得る方法です。特に、画一的な質問紙法では得られにくい児童の内面的、心理的な状況を理解したり、悩みや相談に応じて指導したりする場合に用います。その際には、面接の時間や場所、発問などに十分配慮し、共感的な態度で児童に接することに心がけましょう。言葉がけや指示を的確に行うことによって、直接指導に生かすことができる方法と考えることもできるでしょう。

エ 自己評価・相互評価法

学級活動ノートや委員会、クラブ活動記録簿などに、自己評価欄や児童同士の相互評価の欄を設け、主体的に評価させる方法です。この方法は、学級活動だけでなく、児童会活動やクラブ活動、学校行事などにおいて、学級担任以外の教師が指導者になる場合にも、多く用いられているものです。

この評価を活用する際には、「児童の評価には個人差があること」を前提に、そのまま教師の評価とすることがないように配慮する必要があります。自分や他者の行動や考え方を主体的に振り返り、児童自らが次の活動に評価を生かすことが、この方法のめざす一番の目的であることを念頭に置いて指導にあたることが求められます。

特別活動の評価は、常に「教師の指導」と「児童の活動」の両面から評価することが重要です。「教師の指導」の評価は、「児童の活動状況」によって判断し、その「児童の活動状況」の評価結果を生かして、「教師の指導」を改善することに努めるということになります。

このことは、「指導と評価の一体化」を図ることに直接結びつくものと考えられます。

第2学年 学級活動(話し合い活動)指導案

2年生 ○名
指導者 ○○ ○○

1 議題名 「ハッピーパーティーをしよう」 活動内容(1)

2 議題決定までの背景と経過

(1) 児童の実態

本学級の子どもたちは、友達と協力することに喜びを感じられる子が多く、学級目標の「やればできる、2年生」を合い言葉に、係や当番の活動などにも進んで取り組んでいる。しかし、一方では自己中心的な言動で周囲の子に不愉快な思いをさせる児童もいる。

話し合い活動では、4月当初は自分の意見をうまく説明できなかったり、聞き逃してしまったりすることが多く見られたが、経験を重ねるにしたがって上手に話し合いができるようになってきた。また、友達に頼りがちだった子も、徐々に自分の意見を話せるようになってきている。しかし、まだ自分の意見へのこだわりから友達の意見を聞き入れられない子もいるので、他の教科などとも関連づけながら、協力的に話し合いに参加できるように支援してきた。

計画委員会の活動については、どの子も意欲的に取り組むことができている。話し合いが行き詰まったときには教師の助言を必要とすることもあるが、話し合いの流れに沿わない意見が出たときには、そのことに気づき、修正しようとする発言も出るようになってきた。

(2) 議題決定までの経過

4月以降、「はやおしゲーム大会をしよう」「ドッジボール大会をしよう」「ようち園の子におれいをしよう」などの議題で話し合いを行ってきた。このような実践を経験する中で、学級のみんなどもっと楽しさを共有したいという願いが本議題につながっていると考えられる。

本議題以外には、「クイズ大会をしよう」「なぞなぞ大会をしよう」などの議題が出された。議題決定の際に、「クイズは、ゲーム係が帰りの会でしている所以他のものをしたい。」「なぞなぞ大会だと、なぞなぞしかできない。」「いろいろなことをしたい。」などの意見が出され、本議題に決定した。

(3) 指導にあたって

計画委員会は4つの班が輪番制で行っている。前期に、全員が司会や記録を経験することができた。後期からは新しいメンバーで進めており、今回は4班が担当している。開催の日時、場所、活動の数については事前に決めておくことにした。話し合いの柱は、①「みんなが楽しめるために、何をするか」と、②「どんなかかりがあるか」に設定した。その際には、みんなと楽しい思い出をつくりたいという提案者の思いを大切に、柱を決定するように助言した。

本時に向けて、事前に提案理由を学級会コーナーに提示し、各自に確認させた上で学級会ノートに考えをまとめさせている。そうすることで、提案理由に沿った自分なりの考えをもち、主体的に話し合いに参加できると考える。また、本時では、自分の考えを述べるとともに、友達の意見をしっかりと聞きながら話し合いを進めていけるように支援していきたい。そして、みんなが仲良く助け合って、楽しい活動となるように見守っていきたい。

3 活動の流れと指導助言・評価規準

	活動内容	時間	指導助言	評価規準
話し合いの準備	役割分担・議題設定(計画委員会)	11/2(月) 昼休み	計画委員会では、議題の条件を確認しながら選定するように助言する。	提案された議題の中から、適切な議題を選定することができる。
	議題決定(全員)	11/4(水) 朝の活動	全体には、提案理由を大切に、議題を決めるように助言する。	提案理由を考えながら、決定することができる。
	柱の検討(計画委員会)	11/4(水) 業間	話し合う内容や順序、時間配分を考えて計画を立てるよう助言する。	教師の助言のもとに、話し合う内容や順序、時間配分について決めることができる。
	柱の決定(全員)	11/4(水) 帰りの会	「みんなと楽しい思い出をつくりたい。」という提案理由を、柱に反映させるように助言する。	教師の助言のもとに、提案理由に沿った柱を立てることができる。
	自分の意見をまとめる(全員)	11/18(水) 朝の活動	議題の柱に沿った自分なりの考えをもって話し合いに参加するよう助言する。	議題の柱に沿って、自分の考えをもつことができる。
話し合い	話し合い打ち合わせ(計画委員会)	11/19(木) 昼休み	みんなの意見を大切にしながら話し合いを進めるよう助言する。	どのように進めていくか、教師と共に計画委員会で話し合うことができる。
	「ハッピーパーティーをしよう」(全員)	11/20(金) (本時)	本時の活動に記述	
実践	準備(全員)	11/24(火) ~	準備の様子を把握し、仲良く助け合いながら進んで活動できるよう励ます。	友達と仲良く助け合いながら、進んで準備をしようとしている。
	実践(全員)	12/4(金) 2校時	全員が仲良く助け合っているか見守り、必要に応じて助言や賞賛をする。	友達と仲良く助け合いながら実施し、楽しんでいる。
振り返り	活動を振り返る(全員)	12/4(金) 帰りの会	自分や友達のがんばりに気づかせ、次の活動に生かせるように助言する。	活動を振り返り、よかったことやがんばったことを見つけ、次の活動への意欲をもつことができる。

4 本時の活動

(1) ねらい

仲よく助け合って、みんなが楽しむために「ハッピーパーティーをしよう」を話し合う。

(2) 活動計画

だいたい 30分 わくわく学級会のけいかく 11月20日(金) 2時間目

ぎだい	ハッピーパーティーをしよう		
ていあんりゆう	12月に、みんなと楽しい思い出をつくりたいと思ったから。		ていあんしゃ さん
やくわりぶんとん	し 会	こくばん記ろく	ノート記ろく
	さん さん	さん さん	さん
きまつて いること	日じ : 12月4日 ばしよ : 教室 かつどうの数 : 3つ(みんなできてること)		
はなしあいの じゅんじょ		気をつけること	
1 はじめのことば 2 やくわりしようかい 3 ぎだいのかくにん 4 ていあんりゆうのはっぴょう 5 はなしあい はしら① (20)分		・いろいろな人がはっぴょうできるようにする。 ・いけんが出ないとき は、けいかくいいんの人もはっぴょうする。	
みんなが楽しめるために、何をするか。 はしら② (15)分		・みんなが楽しめるようないけんを出してもらおう。 ・いけんが合わないときは、合体したいいけんにまとめたり、めざしたりしてもらおう。	
6 きまつたことのはっぴょう 7 はなしあいのふりかえり 8 先生のはなし 9 おわりのことば			

(3) 指導助言

- 自分たちの力で話し合いができるように見守り、必要に応じて司会グループを手伝ったり助言したりする。
- 提案理由に沿った意見や、友達の考えを大切にされた意見などを賞賛し、次の活動への意欲を高める。

(4) 評価規準

- 仲よく助け合って、進んで話し合いに参加することができる。
- 友達の思いを大切にしながら、提案理由に沿った意見を述べようとしている。

第4学年 学級活動(話し合い活動)指導案

4年生 ○名
指導者 ○○ ○○

1 議題名 「先生お帰りパーティーをしよう」 活動内容(1)

2 議題決定までの背景と経過

(1) 児童の実態

本学級は明るく活発な子どもが多く、何事にも興味をもって楽しむことができる。係活動の「ゲーム係」や「劇係」も、教師の働きかけなしで、自分たちで次々と楽しい活動を考え、帰りの会で披露している。また「整理係」は学級文庫の本が散らかっていることから、本を五十音順に並べるよう棚に表示し、整理しやすくなる工夫をしている。このように自分たちで考え協力して、楽しく過ごしやすい活動が学級全体に広がりつつある。

話し合い活動では活発に意見交換ができる反面、自己中心的な発言をしたり、意見が対立しお互い譲らなかつたりして、時間通りに終わらないことがあった。また後半になると、集中できずに人任せになってしまう子どもも見られる。学級会での話し合いはもちろんのこと、日々の学習においても、自分の考えと比較しながら聞けるよう励ましている。

(2) 議題決定までの経過

これまで、「学級の旗を作ろう」「係を決めよう」などの議題をもとに学校生活を工夫し楽しく過ごす話し合いを進めてきた。そして「チャレンジ大会をしよう」「先生を送る会をしよう」等の議題についても話し合い、楽しく実践してきた。話し合い・実践・振り返りを繰り返し、全員が計画委員を経験していく中で、お互いのよさを認め合いながら、少しずつではあるが自主的に活動できるようになっている。

4月からTTとしてお世話になっていたY先生が、入院のため8月から4か月間休職されている。しばらくのお別れとなる7月に先生を「送る会」を行った。話し合いから当日の会まで自主的に活動を進め、先生のために楽しい会をもつことができた。子どもたちは、先生に喜んでいただけたことから、自分たちの力でできた満足感と充実感を味わっていたようだ。そして、夏休み明けに多く出されていた議題が「先生お帰りパーティーをしよう」である。先生は当初10月ごろ復帰される予定であったため、それを待っていた子どもたちの思いが表れた議題であったが、先生の復帰が2か月後になったことから、今回ようやく議題として決定された。

(3) 指導にあたって

計画委員は6グループの輪番制で行っており、現在2巡目に入っている。話し合いの柱①は、「どんな内容にするか」、柱②は、「どんな係が必要か」に決定した。

計画委員会では、司会グループ全員が協力することで話し合いがスムーズに進められることを確認した。また、みんなの意見を大切にしながら会を進めることを話し合った。

本時は、お世話になった先生の歓迎会の話し合いである。先生を喜ばせることを一番に考え、その上でクラスのみならず楽しめる会にすることを意識させたい。また、係を決める段階では、今まで実践してきたことを想起させ、よりよい活動ができるよう助言したい。

活動後には振り返る時間をとり、自分や友達のがんばりやよかったことを認め合わせ、今後の活動に生かしていけるように励ましていきたい。

3 活動の流れと指導助言・評価規準

	活動内容	時間	指導助言	評価規準
話し合いの準備	役割分担・議題設定 (計画委員会)	11/10(火) 昼休み	みんなで協力しながら役割分担させる。	みんなと協力しながら役割を決めることができる。
	議題決定 (全員)	11/10(火) 帰りの会	提案理由を大切に、議題を選ぶよう助言する。	提案理由を大切に、自分たちの力で計画できる議題を選ぶことができる。
	柱の検討 (計画委員会)	11/11(水) 昼休み	パーティーを成功させるために、話し合う柱が大切であることを知らせ、決定させる。	教師の助言を受けながら、自分たちの力で柱を考えることができる。
	柱の決定 (全員)	11/11(水) 帰りの会		
	自分の意見をまとめる (全員)	11/13(金) 新町タイム	先生に喜んでもらえる会になるよう、自分なりの考えをもって、話し合いに参加できるようにする。	議題の提案理由を把握し、これまでの活動を生かした意見を考えることができる。
	話し合い打ち合わせ (計画委員会)	11/18(水) 昼休み	みんなの意見を大切にしながら会を進めるように助言する。	一人一人の意見を大切にするために、どのように会を進めていくか話し合うことができる。
話し合い	「先生お帰りパーティーをしよう。」(全員)	11/20(金) (本時)	本時の活動に記述	
実践	準備 (全員)	11/24(火) ～	準備の様子を把握し、友達と協力しながら準備や練習することを助言する。	計画に従い、友達と協力して、準備や練習をすることができる。
	実践 (全員)	12/7(月) 3校時	各係で協力しながら、自分たちの役割を果たし、活動できるように励ます。	決めたことをみんなで協力しながら実施し、喜びを感じるができる。
振り返り	活動を振り返る (全員)	12/7(月) 帰りの会	がんばったところを十分賞賛する。 うまくいかなかったこともこれからの活動に生かせることに気付かせ、意欲づけをする。	友達のよいところやがんばりを見つめることができる。 活動を振り返り、次の活動に生かそうとすることができる。

4 本時の活動

(1) ねらい

先生に喜んでもらえる「先生お帰りパーティー」になるように話し合う。

(2) 活動計画

第9回 スマイルフレンズ学級会の計画		11月 20日 (金) 2時間目	
議題	先生お帰りパーティーをしよう		
提案理由	ひさしぶりに帰ってくる先生に喜んでもらいたいし、ぼくたちも元気になった先生と楽しみたいたから。		提案者 〇〇さん
計画委員	司 会	黒 板 記 録	ノ ー ト 記 録
役割分担	〇〇さん 〇〇さん	〇〇さん 〇〇さん	〇〇さん
決まっていること	12月 7日 (月) 3時間目 教室 内容は47		
話 合 い の 順 序		気 を つ け る こ と	
1 はじめのことば		○さん成意見を大七刀にしなが 話し合いを進める。 ○意見が出ないときは、司会グループ 意見を発表する。	
2 役割の紹介			
3 議題の確認			
4 提案理由の発表			
5 話し合い			
柱① (20)分 〇〇〇内容にするか。		○先生がよろこびそうな内容を 考えて、いってもらおう。	
柱② (15)分 〇〇〇係がいるか。		○会を盛りあげるための係をいってもらおう。 ○意見があわないときは、おた かいはやすりあ、たり、まとめたり してもらおう。	
6 決まったことの発表			
7 話し合いをふり返って			
8 先生の話			
9 終わりのことば			

(3) 指導助言

- ・ 自分たちの力で、先生を喜ばせることを考えながら、話し合いが進められるように見守る。
- ・ 互いの思いを生かしながら話し合うことができた点を賞賛し、次時の活動意欲を高める。

(4) 評価規準

- ・ 先生に喜んでもらえる会にするために、進んで話し合いに参加できる。
- ・ 友達の思いを大切にしながら、提案理由に沿った意見を述べようとしている。

第5学年 学級活動（話し合い活動）指導案

5年生 ○名
指導者 ○○ ○○

1 議題名 「1年生をお店に招待しよう」 活動内容（1）

2 議題設定までの背景と経過

(1) 児童の実態

本学級では、学級目標「互いに助け合おう。元気にあいさつし進んで働こう。どんどん発表しよう。」のもと、『Yes, we can!』を合い言葉に、明るく前向きに何事にも挑戦できる学級を目指している。委員会活動やフレンズ班(異年齢集団)活動、学校行事では、下学年のために率先して行動する等、高学年としての自覚も育ってきている。学級生活の中でも、朝のボランティア活動や当番活動、係活動などで、意欲的に取り組む児童が多く見られる。

学級会では、高学年として学校全体のことを考えたり、学級生活を今まで以上に楽しいものにし、さらに充実・向上させたりするために、みんなで意見を出し合い、計画を立てて実践しているという意欲が見られるようになってきた。しかし、学級や学校の諸問題に気付き、議題を出し、自分たちの手で解決していく積極的な態度は、まだ十分に育っていない。このため、議題があまり集まらなかったり、話し合い活動では発言力のある子に押され、思いはあっても意見を言うことができなかったり、人任せにしてしまったりする子が少なくない。

(2) 議題決定までの経過

議題提案カードには、本議題の他に「本の紹介をする会をしよう」「宝探し大会をしよう」「クリスマスパーティーをしよう」等が寄せられた。本議題は、夏頃から昼休みに1年生と一緒に遊ぶようになった女子数名が、クラス全体にその輪を広げたいと考え、提案した。学級の多くの子どもたちが、フレンズ班活動を通して他学年とかかわることの楽しさを経験し、また、高学年として年下の子に何かを教えてあげたいという思いを抱いていた。そこで、みんなで1年生と もっと仲よくなるために楽しい会を開こうと今回の議題に決定した。

(3) 指導にあたって

計画委員会では、提案理由にもとづいて活発な話し合いができるように、話し合いの柱を①「仲よくなるためにどんなお店を出すか」、②「もり上げるためにどんな係がいるか」の2つに設定し、場所とお店の数については事前に決めておくことにした。また、あらかじめ1年生がどんなことを楽しく思っているのかを1年生や担任の先生に聞くことになった。聞いたことを学級のみんなに知らせ、もっと仲よくなるための活動や係を具体的にイメージして、一人一人が自分の考えをもって参加できるようにしようと助言した。

本時の話し合いでは、自分たちも1年生も共に楽しめる活動となることを意識させ、どの子ども主体的な態度で自信をもって発言し、また、友達の思いをしっかりと受け止めることができる話し合いになるように見守りたい。そして、活動全体を通して、自分たちで話し合ったことを実現していく達成感や1年生と仲よくなれた満足感を味わわせることで、一人一人が次への課題意識を持ち、さらに主体的に活動にかかわっていけるようにしていきたい。

3 活動の流れと指導助言・評価規準

	活動内容	時間	助言指導	評価規準
話し合いの準備	役割分担・議題設定 (計画委員会)	11/10(火) 昼休み	議題選定の視点を示し、提案理由を確認しながら、適切な議題を決定するよう助言する。 前回までの話し合いを振り返り、話し合う内容や順序、時間配分を自分たちで考え、計画できるように助言する。 自分なりの考えをもって、話し合いに参加できるように助言する。 みんなの考えを話し合いに生かせるように助言する。	提案された議題の中から、提案理由を理解し、適切な議題を全員で決定することができる。 教師の助言のもと、話し合う内容や順序、時間配分について決め、提案できる。 議題の提案理由を理解して、柱にそって自分の考えをもつことができる。 一人一人の意見を大切にするために、どう進めていくか話し合うことができる。
	議題決定 (全員)	11/11(水) 帰りの会		
	柱の検討 (計画委員会)	11/12(木) 昼休み		
	柱の決定 (全員)	11/12(木) 帰りの会		
	自分の意見をまとめる (全員)	11/17(火) 朝の活動		
話し合いの打ち合わせ (計画委員会)	11/18(水) 昼休み			
話し合い	「1年生をお店に招待しよう」(全員)	11/20(金) (本時)	本時の活動に記述	
実践	準備 (全員)	11/24(火) ～	1年生のことを考えながら、協力して準備ができるように励ます。	1年生のことを考えながら、協力して積極的に準備をすることができる。
	実践 (全員)	11/27(金) 2校時	1年生も自分たちも楽しく活動できているか見守り、必要に応じ助言や賞賛をする。	自分の役割を果たしながら、1年生も自分たちも楽しく活動することができる。
振り返り	活動を振り返り、生かす (全員)	11/27(金) 帰りの会	友達や活動のよかった点や反省点等を振り返らせるとともに、1年生の感想を伝え、次の活動に生かせるようにする。	活動を振り返り、友達や活動のよかった点や反省点等を見つけることができる。

4 本時の活動

(1) ねらい

1年生のことを考えながら、もっと仲よくなるために「1年生をお店に招待しよう」について話し合う。

(2) 活動計画

第10回 わくわくスマイル学級会の計画		11月20日(2) 時間目	
議題	1年生をお店に招待しよう!		
提案理由	1年生をお店に招待して、いっしょに遊んで、もっと1年生となかよくなりたいたいから。	提案者	さん さん さん
計画委員	司会	黒板記録	ノート記録
役割分担	くん さん	くん さん	くん
決まっていること	・お店を開く日:11月26日(木)3時間目 ・場所:体育館 ・お店の数:5つ		
話合いの順序		気をつけること	
1	はじめのことば		
2	役割の紹介		
3	議題の確認		
4	提案理由の発表		
5	話合い 柱①(20)分 なかよくなるために、 どんなお店を出すか 柱②(15)分 もり上げるために どんな係がいるか	・1年生も自分たちも楽しめる計画ができるおに する。 ・みんなの意見を大切にして話合いを進める。 ・なるべく言っていない人に意見を言ってもら。 ・意見が出ないときには言画委員も発表する。	
6	決まったことの発表		
7	話合いをふり返って		
8	先生の話		
9	終わりのことば		

(3) 指導助言

- ・自分たちの力で1年生のことを考えた話合いができるように、助言を控え、話合いを見守る。
- ・「先生の話」では、計画委員会の労をねぎらうとともに、提案理由に沿った意見や友達の思いを大切にしたい意見を賞賛し、実践への意欲を高める。

(4) 評価規準

- ・1年生ともっと仲よくなれるように、1年生のことを考えながら進んで話合いに参加することができる。
- ・提案理由や友達の思いを大切にしながら、自分の考えを発言することができる。

『議題集め 学級目標と 係活動から』

『一週間の 活動と流れを 意識づけ』

『学級目標 児童と教師 保護者の願いをもちよって』

『当番と 係の違い 明確に』

『議題例 示して 学級会を始めよう』

『自治的範囲 示して始める 学級会』

『多くの子に 経験させよう 計画委員』

『友達も 自分も楽しい 話合い』

『少数意見も 大切にする 学級会』

『学級会 子どもを信じて 「待つ」 姿勢』

『時間と場 保障しようよ 係活動』

『学年の 指導のめやすを 明確に』



【参考文献】

文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 東洋館出版社 2008

埼玉県教育委員会『埼玉県小学校教育課程編成要領』2009

徳島県小学校教育研究会特別活動部会『特別活動ハンドブック』 2003